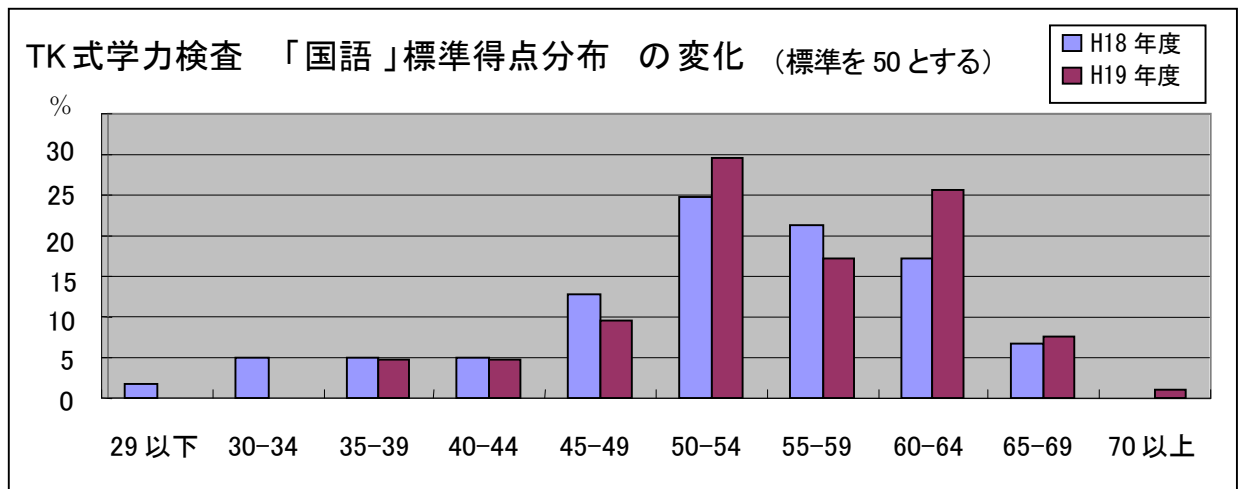


D-1 TK式学力検査「国語」の結果

(1) 標準得点分布の変化

TK式学力検査「国語」の平成18年度と19年度の標準得点分布を比べると、34以下の層がなくなり、全体的に右側へシフトしている。このことから、下位層が徐々に力をつけてきていることがわかれる。PISA 調査において、下位層グループの増加や学力の2極化傾向が問題になっていることを考えれば、本校において学力が引き上げられている事実は、望ましいものであろう。



(2) TK式学力検査「国語」の結果比較

同じく、TK式学力検査「国語」の結果から、どの学年も「読む力」と「書く力」が伸びていることが分かる。これは、「考える力を中核とした読む活動・書く活動」を教育課程の中に組み入れ、日常的に実践した成果と考える。

TK式学力検査「国語」の結果比較 (H18年とH19年)

